財団法人 日本ハンドボール協会編　平成23年 8月1日発行(毎月1回1日発行)　通巻520号　昭和40年6月7日第3種郵便物認可

ハンドボール

8
AUG.2011・No.520

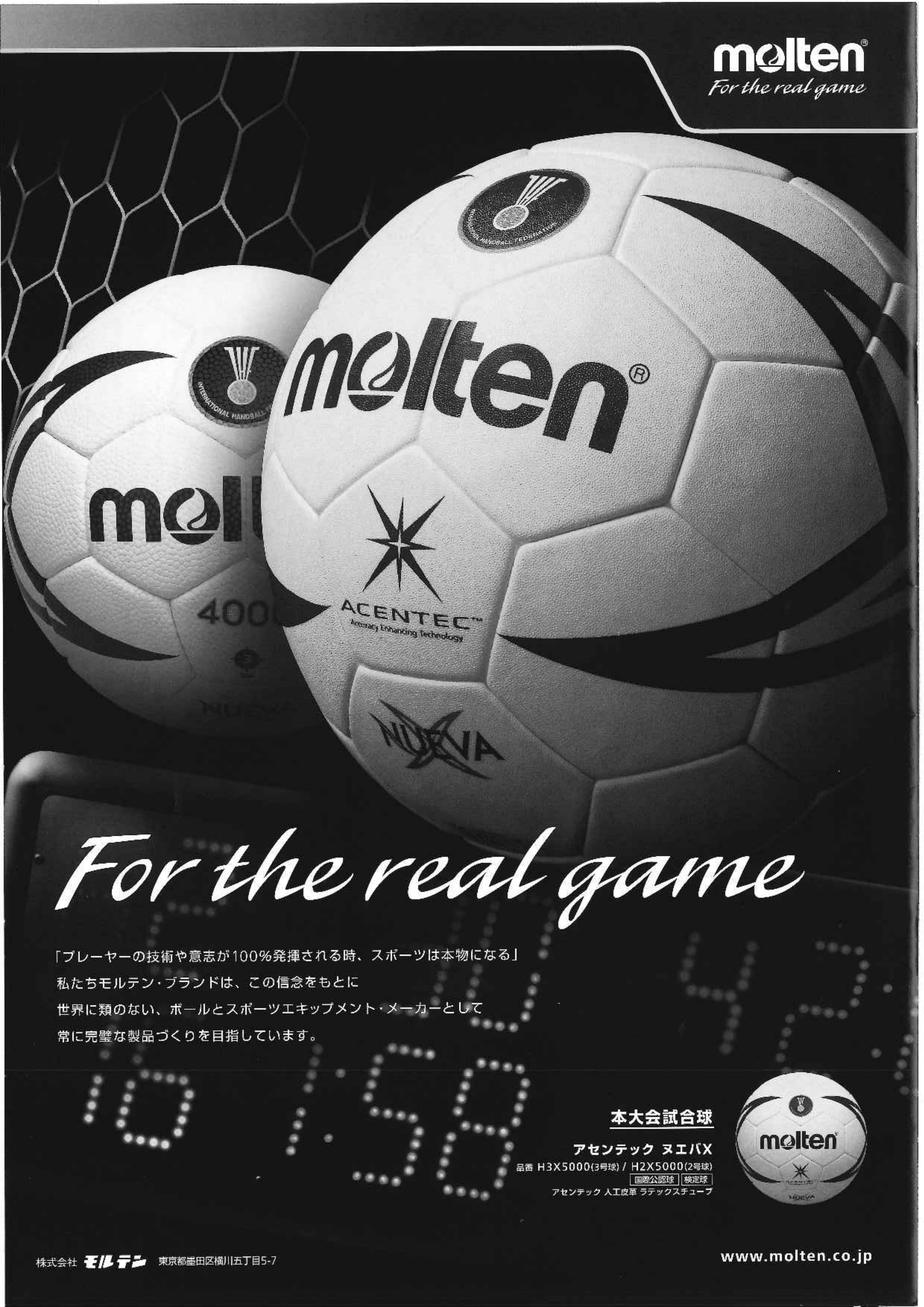
特集

2012ロンドンオリンピック 男・女アジア予選参加国情報



[表紙写真：ロンドンオリンピック出場を目指す男子代表候補の選手たち]

財団法人 日本ハンドボール協会
http://www.handball.jp/



世界で戦う力は基礎・基本の徹底



(財) 日本ハンドボール協会 指導普及本部長　角　紘昭

いよいよハンドボール界の最大の目標である「オリンピック出場」をかけた時が迫ってきました。ナショナルチームの各メンバーの最後の最後までの頑張りに期待したいものです。あわせて、ナショナルチームの各メンバーを含め、日本中のハンドボール関係者は、4年前の豊田予選会、東京での再試合の結果、「次こそは！」と誓ったことを思い出し、一人ひとりが、今できることを確実におこなって、ロンドンオリンピックへ向かって突き進んで行きましょう。

喫緊の目標はこれですが、日本の実力が試されるオリンピックや世界選手権は今後も続いてゆきます。息の長い普及指導強化が必要なことは言うまでもありません。

先回の北京オリンピック予選が終わった直後の「春中」こと第3回全国春の中学生ハンドボール選手権大会において「世界で戦うため養わなければならない『強い心と技』の育成」を提案し、それ以降、具体的な指導資料として「金・銀・銅」「エンジョイハンドボール1，2」、「少年期における体力づくり」、「NTS における U-12 の指導法」、等々を提供してきました。

全国小学生大会や中学生 JOC 大会のここ数年の様子から、この時期の子どもたちのレベルは着実に向上してきていますが、昨年の各カテゴリーの世界大会での結果からは、世界で通用する実力までには未だ到達していないと考えざるを得ません。

「ローマは1日にして成らず」の諺のように「強い心と技」の育成には少年期から綿密に、段階を踏んだメニューが必要です。スタートしてから 10 年を過ぎた NTS では、昨年度来、NTS 指導内容策定委員会において①小学生から大学生までの指導の現場の課題は何か、②ナショナルチームの課題は何か、③チームジャパンとしての特色あるハンドボールはどんなスタイルか、の観点で検討を重ねてきました。

その結果、第一に、日本のハンドボールが取り組むべきことは、正確で早いパスワーク、いかなる場面からでも得点できるシュート力、一試合を走り続ける体力、等の向上です。

これは当たり前のことで、わざわざ取り上げることのようでは無いと思われがちですが、これこそが「世界で戦うため養わなければならない技術・体力」であります。

これまで、どの国際大会や国内大会においても、つねにこれらの不足が反省点として挙げられ続けています。このハンドボールの基本技術・基礎体力の向上を徹底してこそ、それらを基にした応用的なプレーの展開、さらには創造的なゲーム運び、という一貫性をもった指導が可能になると考えています。このことは、ひろくハンドボールを楽しんで取り組んでゆく普及の基となることは言うまでもありません。

今年度の NTS では「基本技術の徹底、基礎体力の向上」の原則を提示します。これを基に指導者の方々はそれぞれ指導方法を工夫されることを期待しています。

News 1

2012ロンドンオリンピック男・女アジア予選参加国（予定）について

●男子出場国（12ヵ国＝2グループとなる）

中国(9)*、韓国(1)、日本(3)、クウェート、サウジアラビア(4)、チャイニーズタイペイ、カタール(5)、バーレーン(2)、イラン(7)、オマーン、イラク(10)、カザフスタン

*（カッコ）内の数字は、直近のアジア選手権（2010/2/6-19 レバノン）の順位を示す。

●女子出場国（8ヵ国＝2グループとなる）

中国(3)、韓国(2)、日本(4)、北朝鮮(5)、トルクメニスタン、イラク、カザフスタン(1)、カタール

*（カッコ）内の数字は、直近のアジア選手権（2010/12/19-25 カザフスタン）の順位を示す。

最終の参加国等は、8月13日（土）にクウェートで行われる組合せ抽選会にて決定されます。現在の予定では、女子が10/12-20 中国・常州、男子が10/23-11/3 韓国・ソウルとなっております。

News 2

（財）日本ハンドボール協会市原副会長、JOC副会長に就任

日本オリンピック委員会（JOC）は6月29日、都内で新法人移行に伴う新体制での最初の理事会を開き、竹田恒和会長を再選、副会長には市原則之専務理事が就任されました。留任した福田富昭、水野正人の両副会長と合わせて副会長は3人体制となります。市原副会長は専務理事を兼務されます。

市原副会長は専務理事として各方面との調整役を担当。来年のロンドン五輪に向けた国家プロジェクトの選手強化支援策「マルチサポート事業」などで、スポーツ行政を所管する文部科学省との折衝を引き続き担当されます。

ハンドボール界からの起用は初であり、今後のご活躍を祈念いたします。

News 3

「第20回女子世界選手権」の組合せ抽選結果

本年12月2日（金）－18日（日）にブラジル・サンパウロ他で開催される第20回女子世界選手権の組合せがIHFより発表されました。（日本は、アジア予選4位だったためC組6番目となっており、3日、5日、6日、8日、9日に予選リーグ、以降は順位決定戦、及び順々決勝・準決勝・決勝（18日）が予定されています）

■グループA

1) ノルウェー（NOR）……ヨーロッパチャンピオン
2) モンテネグロ（MNE）
3) アンゴラ（ANG）……アフリカチャンピオン
4) ドイツ（GER）
5) 中国（CHN）
6) アイスランド（ISL）

■グループB

1) ロシア（RUS）……前回大会チャンピオン
2) カザフスタン（KAZ）……アジアチャンピオン
3) オランダ（NED）
4) 韓国（KOR）
5) スペイン（ESP）
6) オーストラリア（AUS）

■グループC

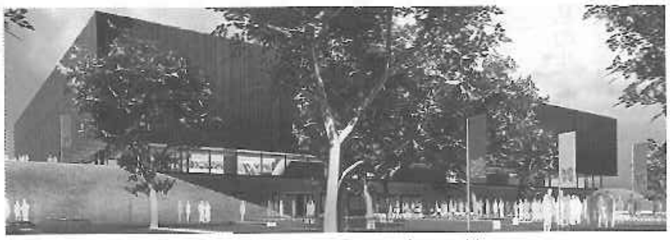
1) ルーマニア（ROU）
2) フランス（FRA）
3) ブラジル（BRA）……ホスト国
4) チュニジア（TUN）
5) キューバ（CUB）
6) **日本（JPN）**

■グループD

1) スウェーデン（SWE）
2) デンマーク（DEN）
3) クロアチア（CRO）
4) アルゼンチン（ARG）
5) コートジボワール（CIV）
6) ウルグアイ（URU）

ロンドンオリンピックに向けて③

ロンドンオリンピックにおけるハンドボール競技は、2012年7月28日から8月12日にかけて、ロンドンオリンピックパーク内のハンドボール・アリーナ及びバスケット・アリーナで行われます。



ハンドボール・アリーナ（6500席）



バスケット・アリーナ（12000席）

参加の男女各12チーム（選手総勢：336名）は、それぞれ2組6チームでの予選ラウンドに分かれ、男女計60試合が7月28日から8月6日までの10日間、男女一日おきに開催されます。予選ラウンドの結果、各組の上位4チームが8月7日女子、8月8日男子の各準々決勝に勝ち進みます。更に8月9日女子、8月10日男子の各準決勝を迎え、8月11日女子、8月12日男子の各銅メダル決定戦と決勝で大会は終了します。会場は各予選ラウンド全試合と女子の準々決勝まではハンドボール・アリーナで行われ、男子の準々決勝と女子の準決勝以降は格段と大きな会場であるバスケット・アリーナで開催されます。

大会試合数は全部で76試合を数え、栄冠である金メダル到達までには予選ラウンド含め1日おきに8試合を行う厳しい日程です。各試合のチケットは既に発売されており、最も安いD席では20ユーロ（日本円換算約：2500円）、最終日のA席では125ユーロ（日本円換算約：15000円）の販売価格となっています。

ロンドンオリンピック出場の国は、6月末の状況は以下のとおりです。

男子は、開催国のイギリス、世界選手権優勝のフランスの2カ国が決まっており、4大陸（欧州・アジア・アフリカ・パンアメリカン）の予選は10月から来年1月に掛けて行われ、世界最終予選が来年の4月開催され最後の6カ国が決まります。

女子も、開催国のイギリス、欧州選手権優勝のノルウェーの2カ国が決まっており、世界選手権（12月）と3大陸（アジア・アフリカ・パンアメリカン）の予選は10月から来年1月に掛けて行われ、世界最終予選は来年の5月開催され最後の6カ国が決まります。

日本が参加するアジア予選は、女子が10月12日から中国・常州、男子が10月23日から韓国・ソウルで行われます。

オリンピックとハンドボールの歴史を振り返れば、1936年のベルリン大会で初めてハンドボールが現れました。現在の屋内でのハンドボールは、1972年のミュンヘン大会からの開催となっており、男子はユーゴスラビア・ソビエト連邦・クロアチアがそれぞれ2回の金メダルを、女子ではデンマークが3回、ソビエト連邦・韓国がそれぞれ2回の金メダルを獲得しています。直近の北京では、男子・フランス、女子・ノルウェーが初の金メダルを獲得したのは、記憶に新しいところです。



ハンドボール・アリーナでのこけら落しの試合から（2011年4月）



3月11日、東北地方などを襲った未曾有の被害により犠牲者となられた方々に対してご冥福と被災地の早い復興を心よりお祈り申し上げます。

ハンドボールという競技を全く知らない私でしたが、日本ハンドボール協会副会長の山下泉様からの薦めにより広島に女子ハンドボールチームを作ったのが、現在の広島メイプルレッズの前身のイズミ女子ハンドボールクラブです。

お陰様で山下さんの指導よろしく創部以来（1994年創部18年目）一部通算成績は157勝9分62敗、その間連続優勝7度（リーグ優勝23～29回大会）前人未到の7連覇を達成しております。

今ではハンドボールは私の生きがいで、どんなに遠くても、必ず試合を見に行きます。

ドイツ視察報告

広島メイプルレッズGM
高西 宏昌

先日、日本ハンドボールリーグ機構からドイツケルンでヨーロッパチャンピオンズリーグ24チームの上位チーム4チーム（ファイナル4）で決める大会（準決勝、3位決定、決勝）（実質の世界選手権）を見ることにより世界トップクラスのプレーを学ぶ視察研修の誘いがあり、早速に申込み参加した次第です。

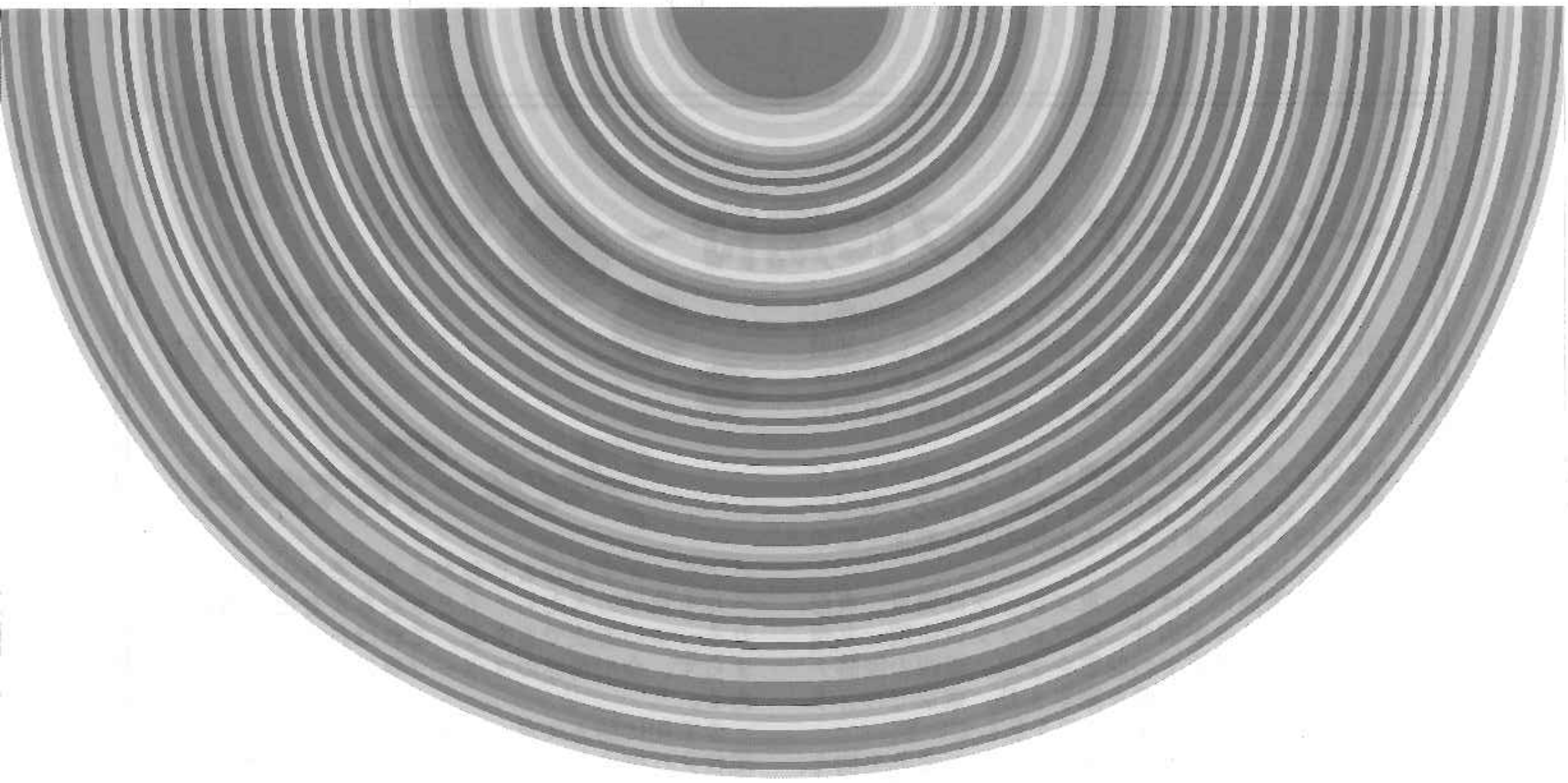
ドイツケルンの会場には5月28日PM2時前に入場、18000人収容のヨーロッパ最大の室内アリーナで、早速に中を3周した。1周600m位の大きさで通路ではビールと軽食が販売されており、日本のプロ野球場のような仕組みで椅子席まで持込可能です。席の入場券は2日通しで150ユーロでありながら多くのファンで満席で、わくわくした顔と笑顔、そして年齢層もお年寄りから若い大婦、20代のカップル、家族連れ、学生、子供まで、今から始まるファイナル4の試合を期待していました。整然としたお祭り騒ぎで最上の雰囲気を肌で感じ、「うわーすごい」と独り言を発し、ドイツケルン市まで自費できた甲斐があり、大満足することが出来ました。

さすがに本場のプレーと個人技術、ファンを飽きさせない工夫

本場のトッププレーを見て選手の技術の高さ、個人技、チーム戦術、チームプレー、身長の高さ2m以上、体力の違いがあり、日本はまだだなーと素人ながら感じました。

今回の研修では、会場選定（会場のすばらしさ（1998年完成））、装飾、演出方法、時間、試合開始までの観客への雰囲気作り、試合中の演出、選手の最後まであきらめないプレー、選手の個人技、チームの向上を活かす工夫がされていた。今後の各種大会運営においては、試合を迫力あるものにし、エンターテイメントも素晴らしく、ファンからも喜ばれ、メディアからは素晴らしいハンドボールイベントだといわれるよう早急に進めていくことが大事で、日本ハンドボール協会中心に是非、是非、皆の知恵により良い意見を授かり、日本のハンドボールを躍進していただきたいと思います。





〜ジュニアカップに期待〜

企画・広報委員
早川　文司

フリースロー Free Throw

JHLの新事業「JHLジュニアカップ」が始動—。JHLは社会貢献と地域密着活動の一環として加盟チームに3年以内にジュニア部門（小学生4年以上）の設立・運営を義務付けカップ戦の開催を目指してきた。
実際はまだ下部組織を設置しているかどうかは不明確で、とりあえず第1回の今年は、日ごろ「教室」などを開いて指導している小学生なら参加を認めることにした。

参加は東西に分けて、東ブロックは関東、東海、北陸の8チームが福井、西ブロックは中国、九州の6チームで熊本での開催を予定。東西の優勝チームによる優勝決定戦を来年3月、東京での日本リーグプレーオフの舞台で行うとしている。

チーム名については、加盟チームの愛称を加え、ユニホームも同じデザイン、もしくは同色系の着用。加盟チームから1人のベンチ入りを義務付けている。

また、多くの参加を呼び掛けるためとも受け取れるが、参加チームの旅費の一部をリーグ機構で負担するとしている。参加者にとっては何よりのプレゼントではなかろうか。

果たして今回、どれだけの参加が見込まれるかは、この原稿を書いている段階では見通せないが、可能な限り多くの参加を期待したい。

地域密着活動はハンドボール界だけでなく、多くの競技団体も重要なテーマに掲げているが、事は簡単ではない。そうした中でのジュニアカップ誕生は、球界にとっては大いに喜ばしいことである。

要は各参加チームが日ごろの活動拠点にどれだけアピールするかも必要だろう。それがハンドボールを地域の人たち、子どもたちが身近に感じられる一つの方法でもある。これは日本だけにとどまらず、今や世界のスポーツ界にあっても同様である。

少子化に加えスポーツ離れは深刻。そういった現状を打破するためにも、今回のジュニアカップは各方面から注目をされるのではないだろうか。

プレーオフの舞台で頂点を争うことも、子どもたちには楽しみだし、励みにもなるはずだ。ただ、状況的には日程などいろんな問題を解決しなければいけないハードルはあるものの、日本リーグのスケジュールに組み込んでリーグ戦を戦う方式になれば、いっそう強化にもつながる。また、成功すれば、中学、高校世代のリーグ戦誕生につながるきっかけにもなるはずである。

とにもかくにも、第1回は各方面から期待と関心を持って注目されることだけは間違いあるまい。喜々としてハンドボールを楽しむ小学生たち。その姿を夢見るだけでも、今回のイベントは素晴らしいの一語に尽きる－と言ったら大袈裟だろうか…。

JADMA
社団法人日本通信販売協会会員

さらに新しくなりました！

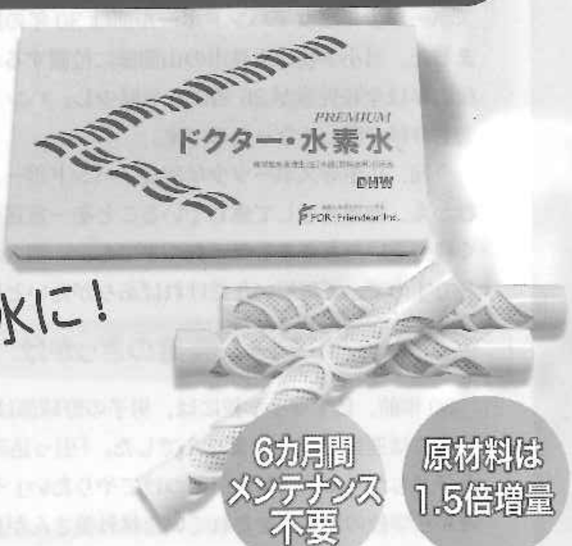
ドクター・水素水®
NEU PREMIUM



私も飲んでます！

山田邦子さんもご愛飲！

ノイ プレミアム新登場！



水道水を
水素豊富水に！

6カ月間
メンテナンス
不要

原材料は
1.5倍増量

スティックを
入れるだけで
水素水が出来る！

水素(H_2)と有害な活性酸素の働き

体内の有害な活性酸素の蓄積は、環境、タバコ、酒、ストレス、紫外線などが原因の一つであると言われています。水素(H_2)はこの有害な活性酸素と反応し、水(H_2O)になり、お体を健康へと導いてくれます。
1日1.5ℓ～2.0ℓの水素水を何回かに分けて飲用する事が大事なポイントです。

特にこんな方におすすめ！

- 健康を維持したい方
- 激しい運動をする方
- 体調管理が必要な方
- ストレスのある方

※本製品は商品改良のため予告なく変更する場合があります。

www.dr-suisosui.com

株式会社 FDR・フレンディア
〒150-0041 東京都渋谷区神南1-9-2 大畠ビル5F 502号
Tel:03-5728-0132 Fax:03-5728-0138

フリーダイヤル
0120-372-132（みんなに いーみ ず）

水素についてもっと詳しくお知りになりたい方は下記のサイトをご覧下さい。
各大学機関が各学会誌に論文を発表しております。
http://suisosui.org/

寄稿

指導者として考える

前 仏生寺スポーツ少年団
女子ハンドボール部監督
西　裕之
（現 富山県氷見市立湖南小学校）



今年の３月、仏生寺小学校は近隣の学校と統合され、仏生寺スポーツ少年団女子ハンドボール部は 30 年の歴史の幕を閉じました。当小学校は氷見市の山間部に位置する小規模校で、最後の年は全校児童が 26 名にまで減少し、ハンドボール部の活動も存続が難しくなったのです。

今回、仏生寺スポーツ少年団女子ハンドボール部が区切りをむかえ、指導者として感じていることを一言述べさせていただく機会をいただきました。あくまでも、一個人が感じていることですので、ご理解いただければありがたいと思います。

チーム発足のきっかけ

30 年前、仏生寺小学校には、男子の野球部はありましたが、女子には運動部がありませんでした。「引っ込み思案な山間部の子どもたちに、何か自信をつけてやりたい」その思いで、当時から学校の用務員をされていた林外美さんが指導し始め、チームが発足されました。授業が終わった放課後から活動できることもあって、４年生以上のほとんどの子どもが入部するようになりました。毎日練習できる環境は、次第にチーム力を上げることにつながり、全国大会へは第２回大会から出場し、「仏生寺のハンドボール」が築かれていくことになったのです。

スポーツを通して何を学ぶのか

私は 11 年前に仏生寺小学校の教員として赴任し、林外美さんの誘いもあって、当チームの指導に携わりました。初めて学校に出向いた時、泥だらけになってグラウンドで練習し、元気なあいさつをしてくれた子どもたちの姿は、今でもはっきり覚えています。

スポーツを通して学ぶことは多くあります。ここでは３つ挙げたいと思います。

１つ目は、礼儀だと思います。当たり前のことなのでしょうが、あいさつをすることや、きちんと話を聞くこと、自分の思いを話すことは学校教育の延長だと感じています。大人も同様で、礼儀のないチームからは魅力も感じません。

２つ目は、人間関係だと思います。特にチームスポーツの場合､お互いの意識が違うことでのトラブルはよくあります。「それならスポーツなんてやらなければいい」と言ってしまえばそれまでです。対象は小学生の子どもです。問題のない日常生活なんてありえません。むしろ子どもは、問題から学ぶことのほうが多いのです。この時期に問題に直面しないまま大人になったら、きっとどのように問題に対処してよいか分からず、それこそ大きな問題になるのではないでしょうか。指導者は、子どもにスポーツを教えるのですから、教育者という考え方が必要です。だから、選手の人間関係をきちんと把握しておくことは大切です。時には毅然とした態度も必要ですし、選手同士で話し合うことも大切です。問題があって当たり前というスタンスのほうがよいと考えます。

そして、３つ目は、感情だと思います。試合をする以上、勝ち負けはあります。勝利を目指すチーム作りを前提とするならば、勝ちにこだわらせることは大切です。選手が「勝ちたい」と思うところに大きな意味はあります。勝ちたいと思い、勝利した時には、大きな喜びを手にするでしょうし、負けた時は真の悔しさが生まれるのでしょう。最近は子どもの一人遊びが多くなった分、喜怒哀楽に欠ける子どもが多くなったと言われますが、人間が本来持っている感情を、この時期に表出させることは、とても大切なことだと考えます。

指導の一本化と指導者の構え

指導は一本化することが大切です。例えば、指導者が二人いてお互いに選手に伝えることが違っていては、選手の意識に戸惑いが生じます。また、同じことを何回も伝える必要はありません。試合でどちらかが戦術を伝えるとしたら、もう一人は選手のモチベーションを高める言葉をかけるようにすることが大切だと考えます。

「心技体」という言葉があります。勝利を掴むにはこの3つが備わっていないといけません。真ん中にある「技」は毎日の練習で磨くものです。よく「練習ではいいプレーをするのだけれど、試合ではちょっと…」という言葉を聞きます。つまり練習で培った技量を引き出す「心」の面に問題があるのです。「心」は「技」の前にあるものです。技術は体に備わるものですが、心はなかなか自分でコントロールできないものです。試合前の不安、緊張はだれにでもあります。選手は自分の気持ちをコントロールする術がないから、力が発揮できないのは当たり前でしょう。そこで指導者が叱咤しても、ますます気持ちが委縮し、思うようなプレーができない経験は誰にでもあります。だとしたら、信頼関係のある指導者から、自信を与える言葉をかけることが必要でしょう。

試合中ミスをする選手に「何やってんだ」と声をかけても頑張れる選手なんて一握りです。拮抗した試合でミスをした選手には、「切りかえろ」と言葉をかけるしかないでしょう。選手の心の状態を前向きにしてやることこそ、指導者の務めだと思います。

そして、選手を支えるのは「体」です。どんなに高い技術があって、試合に向かう気持ちが前向きであっても、それを支える体の状態が万全であることが最も大切であることは言うまでもありません。

練習を工夫し、チームを作ること

毎年、選手の運動能力や性格は違います。新しくチーム作りをする時、この選手にとって必要な練習は何かを考えます。つまり、どのようなスタイルのチームを目指し、そのためにどのような練習をするのかという大きなビジョンをもつことです。もちろん、チームとして不易なものも大切にしなければなりません。仏生寺の場合、フェイント練習やサイドシュートの練習は徹底して行ってきました。

例えば、全国大会2連覇した時のチームは、身長が大きな選手がおらず、ロングシュートの期待はあまりもてませんでした。そこで、ひたすらボールを回し、ディフェンスの間を鋭く突く練習を徹底して行いました。「パスをつなぐこと」はハンドボールの魅力であり、お互いの呼吸が合わないとつながりません。最後にシュートを決めた選手は、自分だけの力ではなく、仲間のおかげであることに気づきます。選手間で声をかけ合うことで、いい雰囲気が生まれるのです。試合中、いい空気感が選手間に流れている時は、指示も伝わりやすく、プレーに余裕が生まれます。

また、運動能力の高い選手を7人そろえても、試合に勝てるとは限りません。チームにとって大切なことは、チームの雰囲気を作れる選手がいるかどうかです。大きな声を出してチームの士気を高めることも大切です。また、ボールに対する執着心は何よりも重要です。一つのボールを滑り込んででも取りにいく姿は、他の選手の闘争心を掻き立てるでしょう。そのような選手が一人いることで、試合の流れをつかむことができます。毎年、そんな選手がいればいいのですが、こればかりは難しいですね…。

大切にしたい伝統

仏生寺スポーツ少年団の場合、小さい子はチームの世話をします。試合中は荷物を運んだり、選手の飲み物を運んだりとチームのためにやれることをします。そして、試合中はベンチで試合を見つめます。きっと「いつかはあんなプレーができるようになりたい」と思いながら観ているのだと思います。この「憧れ」はチームにとって大切な伝統です。それは、指導者からは伝えきれないものです。子どもは子ども同士でしか分からない理解があり、そのことが継承されていくことが、チームの大きな力になるのでしょう。

ここまで、身勝手なことを多く書き綴って参りましたが、自分自身は11年間の指導で、多くの全国の指導者と出会い、指導に対する考え方を聞かせていただきました。お世話になった皆さんに対し、この場を借りて、厚く感謝申し上げます。

尚、仏生寺スポーツ少年団は、新しく統合された学校で「十三ジュニア女子ハンドボールクラブ」として継承されることになり、私自身も、引き続き指導を続けております。今後もよろしくお願いいたします。

TOPICS
from IHF news

IHF ニュースの中から４つのトピックスを紹介します。

❶ European qualification for Women's World Championship completed
女子世界選手権欧州予選終了

2011.6.12 付



2011 年 12 月 3 日から 18 日にブラジルで行われる女子世界選手権の出場国の 24 ヶ国のうち 21 ヶ国が 2011 年 6 月 12 日までに予選を通過した。この週末にヨーロッパ予選のプレーオフが終了し、8 つの国々がブラジルへの予選を突破した。

突破国は、モンテネグロ、スペイン、フランス、オランダ、クロアチア、アイスランド、ドイツ、デンマークである

モンテネグロとアイスランドは世界選手権初出場となった。2003 年の世界選手権準優勝のハンガリーはドイツに敗れ、2013 年世界選手権のホスト国であるセルビアはクロアチアに敗れ、ブラジル大会の予選を突破することができなかった。

【ヨーロッパ予選結果】

チェコ vs モンテネグロ	26-33（11-16）	第 1 戦 26-42
オランダ vs トルコ	34-28（23-16）	第 1 戦 40-28
スペイン vs マケドニア	21-24（11-11）	第 1 戦 37-22
フランス vs スロベニア	28-20（16-10）	第 1 戦 28-19
クロアチア vs セルビア	30-31（15-15）	第 1 戦 36-25
アイスランド vs ウクライナ	24-24（13-12）	第 1 戦 37-18
ドイツ vs ハンガリー	27-22（14-12）	第 1 戦 26-24
ポーランド vs デンマーク	19-24（11-9）	第 1 戦 16-23

以下の国はすでに世界選手権への出場を決めている。

ブラジル（ホスト国）

ロシア（前回優勝国）

アジア：カザフスタン（アジア優勝国）、韓国、日本、中国

アフリカ：アンゴラ（アフリカ優勝国）、チュニジア、コートジボワール

ヨーロッパ：ノルウェー（ヨーロッパ優勝国）、スウェーデン、ルーマニア

オセアニア：オーストラリア

最後の 3 つの出場国は、7 月 2 日に終了するパンアメリカ選手権で決定する。ブラジル大会の抽選会も同日に行われる予定である。

世界選手権は、2012 年のロンドン五輪に向けて大切な大会になる。優勝チームはそのままロンドン五輪の出場権を手にし、2 位から 7 位の国は、オリンピックへの残り 6 つの出場枠をかけて 3 つに分かれた予選トーナメント（世界最終予選）を戦う。この世界最終予選は 2012 年の 5 月 25 日から 27 日に行われる。

❷ Field of the Men's European Championship 2012 completed
欧州男子ハンドボール選手権 2012 の出場国決定

2011.6.12 付

欧州ハンドボール選手権 2012 の予選試合 6 節の最終日の試合によって出場国が最終決定された。本予選の 28 ヶ国で争われた 94 試合ののち、欧州男子ハンドボール選手権の 16 のすべての参加国が 2011 年 6 月 12 日日曜に決定された。マケドニア、アイスランド、ポーランド、スロベニアが最後にセルビアへの予選突破を決めた。

7 つの予選組のうち次の国が 2012 欧州選手権への予選を突破している。

1 組　ハンガリー、マケドニア
2 組　クロアチア、スペイン
3 組　ポーランド、スロベニア
4 組　スウェーデン、スロバキア
5 組　ドイツ、アイスランド
6 組　ノルウェー、チェコ
7 組　デンマーク、ロシア

また、セルビア（ホスト国）とフランス（前回王者）は 6

月15日にベオグラードで行われる予選ラウンドの抽選会でポット4に入る。欧州選手権は2012年1月15日から29日に行われる。

③ IHF Global Referees Training Programme (GRTP) in Dubai/UAE
IHF 国際審判育成プログラム in ドバイ、UAE

2011.6.3 付





IHFの国際審判育成プログラムの一環で、UAEハンドボール協会は6組の有能なアジアの審判団のためのコースをドバイにて、2011年の5月30日から6月4日に開催した。このプログラムの目的は、集中的にアジアの若い審判を教育し、訓練することである。ヨルダン、日本、韓国、サウジアラビア、UAEからの参加審判は、はじめてのこのプログラムへの参加である。イラクから来た審判団は2010年にスペインのグラノリェルスで行われたプログラムへすでに1度参加していた。

IHF競技規則審判委員会の委員長Manfred Prauseと委員会メンバーDawud TawakoliとSandor Andorka両氏の監督のもと行われた理論的な講義と多様なテストの傍ら、今回の国際審判育成プログラムの参加者にはUAEスーパーカップ（UAE男子リーグの2010/11シーズンのファイナルラウンド）の試合の笛を吹くと言う実技研修も行われた。期間は2011年5月27日から6月4日でドバイで行われた。

④ PRC meeting for the second time on Asian soil
アジアで2回目の競技規則審判委員会が開かれる

2011.6.1 付



UAEハンドボール協会の協力で、IHFの競技規則審判委員会(PRC)が2011年5月27日から29日にドバイで行われた。委員長であるManfred Prauseによって主催されたこの競技規則審判委員会では、委員会のメンバーはその他の委員会のメンバーと共に、来たる2011年の世界選手権の準備と大陸予選の報告について話し合った。

2005年のバンコクでの委員会開催に次いで、アジアでPRCの委員会が行われたのは2回目のことであった。UAEハンドボール協会会長のGhanem Al Hajriは懇親会を開き、すべてのメンバーとPRC委員長Prauseのドバイ来訪を歓迎した。

平成23年度
公益財団法人日本体育協会公認
上級コーチ養成講習会
実施報告

この度、表記養成講習会が以下のように実施されました。
ここに、機関誌面をお借りし、報告させていただきます。

指導委員会委員長　笹倉 清則

この「上級コーチ」資格は、

役　割

- ナショナルレベルのトレーニング拠点において、各年代で選抜された競技者の育成強化にあたる。
- 国際大会等の各競技会における監督・コーチとして、競技者が最高の能力を発揮できるよう、強化スタッフとして組織的な指導にあたる。

認定により備えられる知識と能力

- 競技者育成プログラムの理念と方法
- 国際大会レベルの競技者に対する高度な知識

とするもので、公認コーチの上位の資格として位置づけられる。

以下に実施内容等を報告します。

1. 期　間　平成23年6月23日（木）～26日（日）
2. 会　場　味の素ナショナルトレーニングセンター
3. 受講者　18名（現ナショナルスタッフおよび資格認定大学教員）
4. 実施内容

6月23日（木）

○開講式および講習内容の説明

本講習会では、前半は、攻撃課題を「効果的な導入と継続（攻撃リズムの構築）」、防御課題を「攻撃リズムの妨害とボールの獲得」とした、指導実習形式での講習を行い、後半では男女6カテゴリーを代表するスタッフによる戦術構想の発表から今後の日本の目指すべき方向性を見いだすといった内容で行われることが説明された。

○グループ別課題検討

その後、18名の受講生をA・B２つのグループに分け、さらに各グループ内で攻撃・防御それぞれの担当を決定し、課題解決のためのトレーニングの在り方についての討議が行われた。



6月24日（金）

○各グループによる第１発表とディスカッション

各グループで討議された「効果的な導入と継続（攻撃リズムの構築）」と、「攻撃リズムの妨害とボールの獲得」のためのトレーニング方法とそのコンセプトについて、１時間のプレゼンテーションが行われた。その内容はいずれのグループにおいても、受講生の方々のこれまでの豊富な指導経験に基づく非常に完成度の高いものとなっており、明確なねらいと適切なトレーニング方法が提示された。また、相互のディスカッションにおいても課題解決のための鋭い指摘がなされるなど、受講生の意識の高さが浮き彫りとなる内容となった。

○招待チーム（関東学生女子１部リーグ所属チーム）をモデルとした指導実践

二日目の後半は、グループ毎に30分のゲームを観戦し、第１発表でプレゼンした攻撃・防御それぞれの課題の観点から各チームの問題点を見いだし、問題解決のためのトレーニング方法の討議が行われ、翌日午前中３時間のトレーニングメニューの作成が行われた。

6月25日（土）

○各チームのトレーニング実践

A・B各グループが担当チームの指導を行った。攻撃・防御それぞれの課題は同じでありながら、映像などを効果的に使いながら理解を深めてからトレーニングに入るグループと、緻密にビルドアップされたトレーニングを数多く実践し習得させていくグループに分かれるなど、その解決方法としてのトレーニングの内容は対称的なものとなり、非常に興味深い内容となった。

○招待チーム試合

午前中に行ったトレーニングによって、攻撃・防御の問題点がどれだけ改善されたかをチェックする30分間のゲームが実施された。このゲームでは、ゲーム内での問題点を的確に把握し、またその問題点を１分間のタイムアウトの効果的な活用により、どれだけ修正できるかが課題とされた。そのため、両チームそれぞれ３回のタイムアウトが認められる特別ルールが適用された。

両チームとも、ねらいどおりの改善が認められた部分と、



満足な改善が認められなかった部分があり、改善が認められなかった部分については、短期間での指導の難しさを再認識することともなった。各カテゴリーで招集された代表選手が、十分とは言えない準備期間で国際大会に臨む現状を考えた場合、効率よく指導内容を選手に浸透させていくことができる指導力は必要不可欠であり、試合後に行われたディスカッションや、講習会に寄せられた感想からもその重要性が共有できる実習となったようであった。

○男女ナショナルチームの戦術構想について

酒巻氏（男子代表チーム監督）、小藪氏（女子代表チームコーチ：女子ナショナルチームが熊本で合宿中のため黄監督の代理として参加）により、男女各チームの代表活動に関しての発表が行われた。オリンピック予選前と言うこともあり、戦術の詳細については慎重に扱われていたが、男女各チームが置かれているアジアでの位置や、オリンピック出場ために必要と考える準備等について、大変興味深い発表となった。

6月26日（日）

○代表カテゴリー別戦術構想発表

男子U22、女子U20、男子U19、女子U18、男子U16、女子U16それぞれのカテゴリーの代表者により、その戦術構想が発表された。それぞれのカテゴリーが抱える課題も含め、日頃関わることや、他のカテゴリーの現状を知る機会が少ない中で、縦横がつながる発表は、今後も継続して作られるべき場であるという意見も多く聞かれるなど、大変有意義な時間となった。

○検定試験の実施

上級コーチ養成講習会を終えて

前回実施された養成講習会では、アラン・ルンド氏を講師に招き、世界のハンドボールに触れながら、講義を中心とした形式で行われた。しかし、今回は大幅な予定の変更もあり（3月予定していたフェルドマン氏の来日中止など）、問題解決型学習＋代表チームから各カテゴリーの縦横の連携づくりの二本柱で講習会を実施した。受講生の方々からは、カテゴリーを超えたメンバーでのディスカッションを通して、新たなネットワークの構築や、自身の指導を見直す上で非常に有意義だったと評価された一方で、アラン・ルンド氏招聘の際に得られたような、国内では得ることができない新たな見識を生むことができないという指摘もあった。今後は、こうした貴重なご意見を反映させながら、計画的な講習会の開催はもちろんのこと、日本ハンドボール界のさらなる発展のために、より多くの優秀な指導者育成のための有益な講習会の開催を目指していきたい。

平成23年度公益財団法人日本体育協会公認（ハンドボール競技）上級コーチ養成講習会専門科目受講者名簿

No.	受講者名	所属	備考
1	會田宏	筑波大学	資格認定大学教員
2	石川浩和	佼成学園女子高等学校	ナショナルスタッフ
3	岩本明	浦和学院高等学校	ナショナルスタッフ
4	岩本真典	大崎電気ハンドボール部	ナショナルスタッフ
5	大森聡	高岡向陵高等学校	ナショナルスタッフ
6	亀井好弘	（株）香川銀行	ナショナルスタッフ
7	小波津周史	那覇市立鏡原中学校	ナショナルスタッフ
8	清水博之	大同特殊鋼株式会社	ナショナルスタッフ
9	滝川一德	茨城県立藤代紫水高等学校	ナショナルスタッフ
10	辻昇一	日本体育大学	ナショナルスタッフ
11	舎利弗学	福島高等学校	ナショナルスタッフ
12	内記徹	岩手県立不来方高等学校	ナショナルスタッフ
13	野村広明	トヨタ車体株式会社	ナショナルスタッフ
14	船木浩斗	筑波大学大学院（学生）	ナショナルスタッフ
15	細津誠	吉川市立南中学校	ナショナルスタッフ
16	山口修	湧永製薬株式会社	ナショナルスタッフ
17	山田永子	筑波大学	ナショナルスタッフ
18	横手健太	高松大学	ナショナルスタッフ





第9回ハンドボールコーチング研究会は、平成23年3月12日駒澤大学において開催が予定されていましたが、前日の3月11日に大震災が発生したことにより中止となりました。

そこで研究会で発表予定であった内容については、本誌で連載報告していただく運びとなりました。

今月は平岡秀雄先生（東海大学スポーツ医科学研究所研究員）の発表内容「コーチング研究の課題に関する提案」を報告させていただきます。なお、他の発表については次号以降で報告を連載いたします。

(財) 日本ハンドボール協会指導委員会研究部会　舎利弗　学（学校法人福島高等学校）

コーチング研究の課題に関する提案

平岡　秀雄（東海大学スポーツ医科学研究所研究員）

キーワード：コーチング研究、独自課題、指導の道筋

Ⅰ. 日本コーチング学会の設立経過

1950年に体育の科学的研究を目的に「日本体育学会」が設立され、その下部組織として1968年に指導に関する部門「体育方法専門分科会」が設立された。当初はコーチングとティーチングを包含していたが、1970年代後半に体育科教育に関わる部門が独立した。

1970年台には、日本バイオメカニクス学会を初めとして、体育学会とは異なる独立した学会が相次いで設立された。日本スポーツ方法学会も1989年に設立され、早稲田大学で第1回大会が開催された。このころ体育方法専門分科会でも日本スポーツ方法学会においても、他に比べて最も多い発表件数を誇っていた。ところが、その発表内容は、指導に関わる分野である体育方法専門分科会や日本スポーツ方法学会独自の研究かどうかについて疑問に感じるものも多かった。

Ⅱ. 日本コーチング学会の独自研究課題

長嶋氏[1]は、体育方法専門分科会の研究領域を確認すべく、学会発表内容を分類し報告している。しかし、発表された内容を分類したもので、スポーツ方法学の独自の研究領域を示すまでには至っていないように思われる。このことは、日本コーチング学会に改称するのに際して十分に検討されてきたと思うが、あえて提案したい。

コーチング学会の主たる研究課題が、他のスポーツ学会の研究課題と大きく異なる点は、監督・コーチである研究者が被験者となりうる選手を、ある意図のもと実際に指導して、その成果を検証できることにあると考える。自己又は他の研究領域で確認された知見を利用して、新たな指導手順を考え実践した成果を検証し発表出来ることである。

スポーツ方法学又はコーチング学の一般原則はある程度確立されていると考えるが、個別運動方法学又はコーチング学は十分に確立されているとは言い難い。

今コーチング研究でなすべきことは、それぞれのスポーツ種目で、合理的な指導の道筋を研究し報告する「事例研究」を数多く集積することであると考える。コーチング学独自の論文の集積が行われれば、それは分類され理論として構築されていくと考えるからである。

以上のことから、事例研究を多くするため、

①指導の成果を事例研究として分かりやすく説明する論文作成方法を提示する。

②指導の前後を客観的に比較でき、指導の成果を検証するツール等の開発すること。

の２点が急務であると考える。

たとえば、技術的な変化を検証できるVTR３次元解析法[2,3,4]、筋電図解析法などは他領域で開発が進んでいるが、印象分析法、戦術分析法、戦術的認知能力の検査法5）など、コーチング研究の独自領域を検証するツールはあまり見当たらない。

Ⅲ. ハンドボールコーチング研究の現状

ハンドボールコーチング研究の現状は、どのスポーツにおいても未熟練者と熟練者の技術や技能に関わる現状を分析・比較することにより未熟練者の課題を明確にし、指摘する横断的研究報告[2,3,4]が多く見受けられる。しかし、それらの課題をどのように指導すれば、期待する成果を得る事ができるかについての縦断的研究報告[6]、つまり指導の道筋を示す報告はあまり見当たらない。これは、指導者が最善と考える指導手順を用いて担当するチームを指導するので、コントロ

ール群などを設けた複数の指導法を比較するといった、いわゆる科学的な検証方法に馴染まないためと思われる。結果的に、コーチにとって最も重要となる指導事例は、発表の機会を失っていると考える。そのため、現状では多くの指導者が先陣の道をたどり、同じような失敗を繰り返しながら、時間をかけて自己に合った指導方法を確立していくことになる。

Ⅳ. 監督・コーチの研究課題

様々なスポーツ分野で指導するコーチが最も重視すべき研究課題は、"技術や戦術を理解させ、ゲームの状況に応じて学んだ技術や戦術を発揮する能力を向上させるための合理的な道筋を明らかにする" ことであると考える。

Ⅴ. 具体的に何をすべきか

スポーツにおけるコーチングスキルを今以上に発展させるためには、できるだけ多くの指導者が現段階での最善と考える指導方法をまとめて報告すべきと考える。たとえそれが限られたスポーツの、特別な技能を向上させるための合理的な方法であってもかまわない。多くの指導者が数多くの指導成果を報告すれば、指導の成果を得るためのプロセスに共通性を見出すことが可能となり、指導のパターンを分類することが出来るようになるからである。つまり、コーチングに関わる科学的な第1歩と言える、データの集積と分類へと踏み出すことができるからである。

コーチングの分野では、たとえその研究報告が指導者による主観的な手法による分析であっても、指導者自身が指導の成果を実感できたかどうかが重要であると考える。指導の意図とそれを実現するための指導内容やその手順が記録されており、指導の成果が客観的（印象分析で十分だと考える）に分析されていれば、事例研究報告として評価されるべきである。

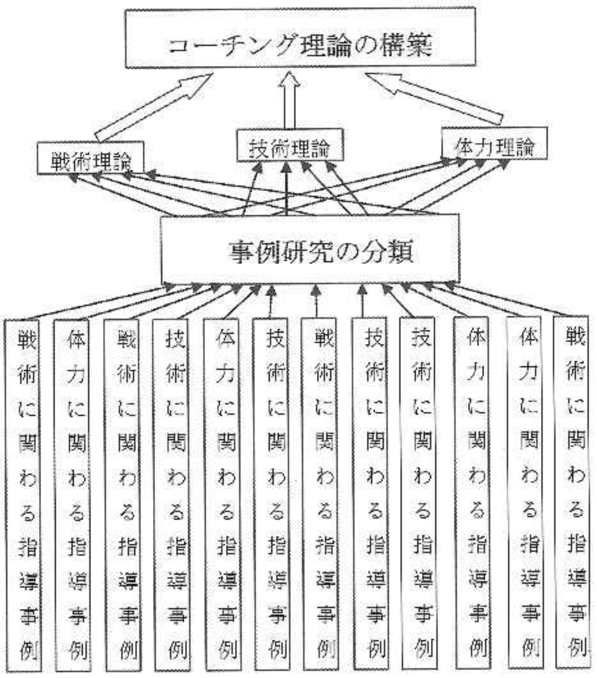


図1　コーチング事例の集積と分類例

Ⅵ. 参考文献

1) 長嶋正俊（2000）：スポーツ方法学会創設10周年記念講演，スポーツ方法学会創設10周年記念号，6 - 14

2) 大西武三ほか（1996）：ハンドボールのプロンジョンシュートに関する研究，筑波大学運動学研究，12，39 - 46

3) 村松　誠ほか（1987）：ハンドボール競技におけるシューターとゴールキーパーの関連より見たジャンピングロングシュート技術に起案する研究，澤大学保健体育部研究紀要 8，30 - 42

4) 平岡秀雄ほか（2007）：ハンドボールのシュート技能に関する運動学的考察，東海大学スポーツ医科学雑誌，19，23-31

5) 平岡秀雄ほか（2009）：ハンドボールの戦術的認知能力に関する評価基準の検討，東海大学スポ - ツ医科学雑誌，21，15 - 20

6) 代　俊ほか（2010）：高齢者における動的バランス機能向上のための運動プログラムの開発，コーチング研究，24，1，57 - 68

グローバルレフェリートレーニングプログラムに参加して

本田 昭太・田渕 元雄

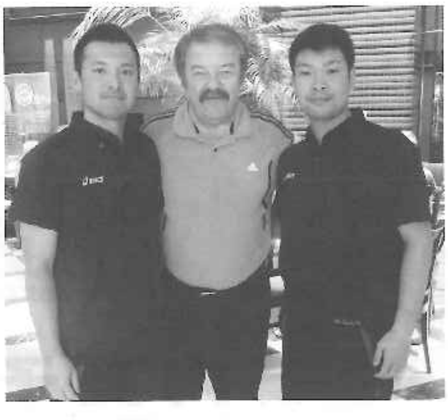


今回、グローバル レフェリー トレーニング プログラム（以下 GRTP）コースに参加する為に、5月29日～6月4日までアラブ首長国連邦（以下 UAE）のドバイへ行ってきました。今回は国際ハンドボール連盟 PRC から、プラウゼ氏、タワコリ氏、シャンドラ氏の3人が講師としてみえていました。参加者は UAE から女性ペアを含む3ペア、イラクから3ペア、ヨルダン、サウジアラビア、韓国、日本から各1ペアずつの計10ペアでした。今回、特殊だと感じたのはアジアハンドボール連盟（以下 AHF）のレフェリーコースも同時に行われていたことです。参加10ペアのうち3ペアは AHF のレフェリーコースへの参加者でした。また、参加者のうち8ペアが中東勢で、アジア以外の地域からの参加者がおらず、私達が想像していたものと違い、驚きを感じました。

UAE の気候はとても暑かったのですが、非常にカラッとしていて嫌な暑さではありませんでした。施設の中は空調が整備されているので少し肌寒さも感じたぐらいです。食事も日本人の口に合う物ばかりで毎日3食おいしく頂くことができ、基本的には何も不自由なく過ごすことができました。

講義内容として、私達が感じたことは、グループディスカッションを重点的に行っていたということです。1日ごとに2グループに分かれて、出された課題に対してペアでの意見を発表する形式でした。私達は始めの講義ではとても消極的になっていました。周りの参加者が積極的に発言していくことに焦りを感じながらも、なかなか言葉が出ませんでした。この状況の中で、間違いを恐れず積極的に話をすることが最も重要なことだと、シャンドラ氏にアドバイスを頂き、私達も積極的に発言をすることができるようになりました。これが、私達の人としての器の小ささを改めて感じる出来事となりました。

そして、今回最も刺激的な体験だったことが、地元のスーパーリーグでのレフェリーを勤めたことです。今までDVDでしか見たことが無いような現象が次々と起こりました。平気で相手の顔を叩いたり、速攻の最中に足を引っ掛けるなど、気がつけばコートの端で選手が倒れていることもありました。このような貴重な体験ができたことが、私達にとって大きなステップアップになったと思います。コースで特に私達が指導された内容としては、競技規則第8条の許される行為・許されない行為、どの罰則を適用するかについての判断基準の確立などでした。その中でも失格のプレーを的確に見極めることが求められました。その他には7mスローを与える基準の確認をするようにと指導を受けました。今後は今回指導を受けた内容を意識しながら各大会に臨みたいと考えています。



今回は、2人だけで行く初めての海外で不安と緊張ばかりでしたが、UAE ハンドボール協会の方々の親切な対応や一緒に参加した仲間に助けられ、無事に GRTP を終えることが出来ました。ただ、中東勢が多いということもあり、アラビックが飛び交うことが多く、日程の終盤からは、講義でもアラビックがまじる場面もあり、戸惑いを感じることもありました…。そんな中で、私達も未熟な部分や足りない所など数多くのことを学ぶことができ、コミュニケーション能力はもちろん、レフェリーとしてどのような人格を持つべきなのか、深く考えさせられました。また、絶対的に語学力が必要であり、私達の英語力の無さを痛感しました。

この度、私達が GRTP 参加という機会を与えて頂いたことは、皆様の多大なるご支援があったからこそだと感じております。私達は周りの皆様の支えがあり、ここまで成長することができ感謝しています。これからも初心を忘れずに日々精進していこうと思います。そして、日本のハンドボール界、レフェリー界へ恩返しが出来るような人格を培っていきたいと思いますので、今後とも御指導の程宜しくお願い致します。

財団法人日本ハンドボール協会創立75周年記念誌委員会から

まず、今回の東日本大震災を被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。我々としては、ハンドボール活動を通して復興に協力できればと考えております。

さて、日本協会創立75周年記念誌は、新年度に入り具体的作業を進めてまいります。昨年委員会設立より、資料の提供のお願いなどしてまいりましたが、これまで多くの資料を全国の皆様からご提供いただきました。この場をお借りしまして御礼申し上げます。しかしながら、まだまだ貴重な資料をお持ちの方は居られると思いますし、このような事業が行われていることさえ、情報が行きとどいていない方もおられると思います。これからの大会や、行事の中で話題にしていただき、新たな情報がありましたら、日本協会事務局までご連絡いただけますようお願いいたします。

現在のところの掲載概要を右に示します。詳細についてはこれからも検討を重ね、よりよいものを目指して行きたいと考えております。

今年度は、各トピック毎に執筆依頼をし、本年度中には原稿を集める予定にしております。すでに、先の全国理事長会議においては、各都道府県協会、加盟連盟に対しまして、執筆者の選定のお願いをしてあります。今後は、各トピック毎に執筆者を選定し依頼をしていく作業を進めます。この点に関しましてもふさわしいと思われる方がいましたらご紹介をお願いいたします。委員会にて検討を加えご依頼をしたいと考えています。

なお、大会記録編につきましては、すでに作業を開始しております。この点につきまして、50年史、60周年誌での記録の不備について、ご指摘もございますので、お気づきの点がありましたら、資料を提示の上ご連絡いただければ訂正をしたいと考えております。正しい資料を残してまいりたいと考えておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

連絡先：(財) 日本ハンドボール協会内 75周年記念誌委員会

「75周年記念誌」掲載概要（2011年6月現在）

■刊行のあいさつ（日本協会渡邉会長）
■祝辞（文部科学大臣、日本体育協会会長、JOC会長、IHF会長、AHF会長など）
■特別寄稿（米倉名誉会長）
■ハンドボール年表
■日本協会年度の動き
■都道府県協会の歩み
■全国連盟・団体の歩み（全日本学生連盟、全国高体連ハンドボール部、全国高専ハンドボール部、全国中体連ハンドボール部、全日本社会人連盟、全日本車いす連盟、全日本実業団連盟、全日本教職員連盟、全日本自衛隊連盟など）
■日本リーグ
■（旧制中学、旧制高校、高等女学校）
■特別企画
■オリンピック、アジア大会、世界選手権、アジア選手権、世界学生選手権、ワールドゲームス、東アジア大会、1997世界選手権熊本大会
■全日本総合大会史、日本リーグ大会史、国体大会史、国内における国際大会、全日本マスターズ、全国小学生大会、ビーチハンドボール
■パイオニアインタビュー
■ヨーロッパでの発生、指導者養成の歩み、レフェリー史、日本ハンドボール技術、戦術史、学校体育とハンドボール、競技規則の変遷、NTS、女性委員会、ドーピング、学校体育研究会、コーチング研究会
■東京オリンピック2度の悲運(1940, 1964)、惜別11人制、振興7人制、ミュンヘンオリンピック参加、女子密室試合、アジアでの発展、北京オリンピック再予選、大谷武一論、アマチュアリズムとの決別、財団法人化、松やに伝来、施設、ルール、ボール、ユニフォーム、競技用具
■50年史からの採録
■名簿編
■大会記録編
■統計編
■資料編

協会だより

平成23年度 第1回評議員会・理事会

日　時：平成23年6月18日（土）
13:30～16:00
場　所：味の素ナショナルトレーニングセンター研修室4・5
出席者（敬称略、名簿順）
評議員：松喜美夫、田辺哲彦、谷藤勝美、三浦　昇、菅野　肇、後藤義信、会田真一、山下勝司、齋藤光男、山口剛之、氷海正行、樋口道夫、小見幸男、古屋孝徳、中浦　悟、石川直樹、村木啓作、夏目眞治、名倉昭弘、前川和三、吉田博二、花野相三、千葉英之、中川敏文、田中秀和、藤井俊朗、高野　修、加藤　晃、松本育男、半田忠史、東福康浩、武田末男、川村浩之、末次　功、緒方知秋、宮元章次、岡山明弘、横山英則、齊藤節郎、阿部富夫、塩田壽久、四宮一郎、市田隆文
以上43名
委任状提出評議員：奥山重雄、竹内佳明、青木政雄、浜野大助、庄司勝三、小澤敏正、森江和吉、石井通義、冨松秋實、新垣　健
以上10名
理　事：渡邊佳英、市原則之、多田　博、川上憲太、高村誠一、大橋則一、角　紘昭、西窪勝広、江成元伸、志々場修二、蒲生晴明、藤森　徹、朝生和光、松井幸嗣、船木浩久、稲生　茂、森安昭雄　以上17名
監　事：伊藤宏幸、近森克彦　以上2名
特任副会長：山下　泉、川上整司、鶴保庸介
以上3名
参　事：川原繁樹、小西博喜、小島収治、高山重雄、杉本眞一、中村博幸、佐藤公美、佐藤喜一、坂本静男、中野利一、堀美和子、村松　誠、佐藤　靖、大原康昇、小山哲央、大村　久、山本　繁、井口京子、佐久間克彦、仲田　稔、矢田貝拓治、兼子　眞
以上22名
欠席者（敬称略、名簿順）
理事：植村　彰、田中　茂、山川博行（委任状提出有り）
事務局：茂木　均、床尾康子
以上、出席評議員43名、委任状出席10名、出席理事17名、委任状出席3名、出席監事2名、出席特任副会長3名、出席参事22名、事務局2名

開会に先立ち、本年度国体開催地の山口県周南市実行委員会より挨拶がなされた。

〈評議員会・理事会成立の確認〉

定刻に開会し、総務担当大橋常務理事より、評議員会は評議員定数53名中、出席43名、書面委任10名であり、又、理事現在数20名中、出席17名、書面委任3名であり財団法人日本ハンドボール協会寄附行為第26条及び第29条に定められた、3分2以上の出席があり、定足数を満たしており、本評議員会・理事会が成立していることが報告された。

次に議長の選出が行われ、寄附行為第28条、第3項に基づき、渡邊会長が議長となる事が報告された。

渡邊会長より挨拶

3月11日東日本大震災で被災された地域の方々にお見舞い申し上げます。

日本を元気にする為に、スポーツで盛り上げたい。今まで手の届かなかった所が実現されれば更に盛り上がる。例えばハンドボール日本代表がオリンピックへ出場するとか、石原都知事が表明したが、2020年オリンピック招致の実現と言ったところです。

あと4ヵ月でオリンピックアジア予選が行われ、それまでの夏の期間中に沢山の行事があるが、是非皆さんで盛り上げていただきたい。

議事進行は、審議事項より行うこととした。

審議事項

1. 平成22年度事業報告書（案）について

冒頭に川上専務理事より、男子ナショナルが1月の世界選手権において、ヨーロッパ勢の一角オーストリアを破ったが16位の成績であった事、2月に福井でAHFレフェリーコースを開催した事等の報告があった。

各担当常務理事より、平成22年度の事業について、1）普及指導、2）競技、3）国際、4）審判、5）強化、6）機関誌、7）企画、8）広報、9）財務会計、10）日本リーグ、11）総務、12）20万人会、13）マーケティングの順に概要が説明された。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

2. 平成22年度決算書（案）について

大橋財務担当常務理事より、平成22年度の決算について概要が説明された。事業活動収入合計442,667,500円、事業活動支出合計501,356,784円、その結果次期繰越額53,724,283円となった。

稲生理事より、普及U-15チーム育成事業について、予算がかなり残っている。もっと活用して欲しい旨お願いがあった。

角常務理事より、執行していないブロックは大会等を検討してもらいたいとの発言があった。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

3. 監査報告

近森監事より6月7日に監事2名の立ち会いで監査を行い、業務及び会計処理など適性であったことが報告された。

4. 平成23年度第一次補正予算（案）について

大橋財務担当常務理事より、平成22年度の決算が確定したことと一部見直しがあったことから、平成23年度第一次補正案について説明がなされた。

補正後　事業活動収入合計495,390,000円、事業活動支出合計492,386,289円、積立金取崩し収入10,000,000円、予備費支出1,500,000円、当期収支差額11,503,711円となり、次期繰越収支差額は65,227,994円となることが説明された。

村木評議員より、登録コンピュータ処理費については、毎年600万円の費用が掛かるのかとの質問に対し、大橋常務理事より、本件は委託料なので、毎年発生するとの回答があった。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

5. 公益法人移行に係る諸手続きについて

藤森常務理事より、説明がなされた。
1）最初の評議員選任方法について承認
2）最初の評議員選定委員会委員（評議員：樋口道夫、監事：伊藤宏幸、事務局員：兼子眞、外部委員：西川三男、八木秀記）承認
3）定款案

市原副会長より、JOCは公益法人となった。公益法人化の目的は、外部有識者を評議員選定委員会に入れるなどして、組織に透明性を持たせようとしている事だ。代理出席が認められないため、評議員数、理事数など慎重な討議が必要だ。

村木評議員より、評議員の数を絞った理由は何かとの質問に対し、藤森常務理事より、法律上は3名以上なので、必要最小限にしているとの回答があった。

引続き、村木評議員より、愛知県体育協会でも同様に法人移行作業をしているが、評議員の数を減らす考えはない、また評議員の選出方法について知りたいとの質問に対して、

藤森常務理事より、登録人数を参考に各ブロック推薦人数を決め、これに各連盟から推薦の1名を加える事を基本に考えているとの回答があった。

村木評議員より、そうすると東海ブロックから3名となるのか、この3名の決め方はどうなるのか質問があり、藤森常務理事より、各ブロック内で決めてもらう事になると回答があった。

村木評議員より、各ブロックへの比重が大きくなるので、各県から1名、各連盟から1名という考えはできないかとの質問に対して、渡邊会長より、定数については再検討すると回答があった。

田辺評議員より、定款では、役員を評議員会で決めると書いてあるが、決め方が良く分からないとの質問があり、川上専務理事より、現在の評議員会とは全く異なり、評議員会の権限が重くなるとの回答があり、更に、渡邊会長より、仲間内で決めるわけにはいかない。法律に基づいてやって行くと回答があった。

田辺評議員より、評議員選定委員会5人の選出方法はどうしたのか、更に、後藤評議員より、地方協会の意見が取り入れられていないとの質問があり、渡邊会長より、定数並びに定款について再考したいとの回答があった。

6. 平成22年度日本協会表彰者について

大橋総務担当常務理事より、平成22年度の日本協会表彰者について、加盟団体及び日本協会からの推薦者一覧の説明がなされた。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

表彰者を代表して、本会に出席している鹿児島県協会会長岡山評議員へ、渡邊会長より表彰状が手渡された。

報告事項

1. 平成23年度会議日程及び平成24年度会議日程粗案について

大橋常務理事より、日本協会会議日程について説明された。従来の常務理事会のうち、年に2回程本部長会となった。平成24年度は粗案である。

2. 平成23年度国際・国内・ブロック大会日程について

江成常務理事より、国際・国内大会及びブロック大会予定について説明された。

3. 強化（スタッフ、JOC強化指定選手、年齢別）について

西窪常務理事より、平成23年度の強化スタッフ体制、JOC強化指定選手、年齢別強化指定選手について説明があった。男子のU24, U21をU22に統合した。

4. 普及関係（ハンドボール研究集会他）について

佐藤靖参事より、第14回研究集会及びハンドボール授業実践推進制度について説明があった。

また今年度のマスターズ大会について、小山参事より説明があった。

5. IHF総会報告他

蒲生常務理事より、IHF総会の概要と日本協会国際委員会について説明があった。

6. 社会人連盟設立について

江成常務理事より、4月3日に行われた第1回社会人連盟理事会議事録に基づき、社会人連盟の説明があった。

7. 創立75周年記念誌について

村松参事より、75周年記念誌の内容等について説明があった。

8. がんばれハンドボール20万人会について

大橋常務理事より、説明があった。

9. JOC総務委員会報告

川上専務理事より、JOC総務委員会資料に基づき、JOC活動の報告があった。

市原副会長より、その中で「スポーツこころのプロジェクト」について説明された。

10. その他

1) 川上専務理事より、東日本大震災関連の義援金額について説明があった。
2) 高山参事より、全中参加チームに関し、各ブロックへの割当数について見直しをしていただきたいと要望があった。
3) 小西参事より、車椅子ハンドボール大会の現状について説明があった。
4) 後藤評議員より、全国クラブ選手権東地区大会が開かれる福島県本宮市では、放射線量をチェックしており問題はないと説明があった。
5) 大原参事より、今秋のオリンピック予選には、応援団を日本協会で企画しブロック毎に参加者を募集したらどうかと提案があった。
6) 江成常務理事より、本田・田渕のレフェリーペアがIHFの指名を受け、GRTPに参加。太田・島尻の女性ペアがカザフスタンで行われたチャレンジトロフィーに参加。池渕・檜崎ペアが今年12月の女子世界選手権（ブラジル）のレフェリーに指名されたと報告があった。

市原副会長より閉会にあたり挨拶があった。今年、日本体育協会・日本オリンピック委員会が創立100周年を迎える。記念式典が7月16日に実施される。IOCロゲ会長、OCAアーメド会長も来日される。スポーツ基本法が昨日参議院本会議で可決された。スポーツを国策として欲しい。今後被災地にどんどん競技を持って行きたい。各ブロックとも連携してすすめて欲しい。

予定していた議案について全て終了したので、16時に平成23年度第1回評議員会・理事会は閉会した。

がんばれハンドボール20万人会「サポート会員」6月入会・継続会員

【北海道】松　喜美夫【岩　手】上町　祐隆【栃　木】渡邊　克則【群　馬】酒井　宏【埼　玉】浅川　敏司
【千　葉】松井　秀樹【東　京】田島　雅史、上原　信子、関沢　計人、大津　武彦、小笠原　泰代
【神奈川】河野　卓也、木本　一成【静　岡】坂東　廣一【愛　知】川合　育郷【大　阪】幸田　良一、本田　勝亮、倉田　忠司【兵　庫】川原崎　雅彦、高祖　加奈子【和歌山】水口　幹夫【広　島】福井　恵二
【香　川】田中　美季【福　岡】日野　祐一郎、和佐野　健吾【熊　本】木村　淳一、坂口　満

【8月の行事予定】

【大　会】

8月5日㈮～7日㈰
第19回全日本マスターズ大会（大阪市）

8月6日㈯～9日㈫
第16回ジャパンオープントーナメント（男女）
（岐阜県・高山市、飛騨市、下呂市）

8月17日㈬～20日㈯
第40回全国中学校大会（京都市）

8月22日㈪～26日㈮
第3回日韓小学生親善交流（愛知県・東海市）

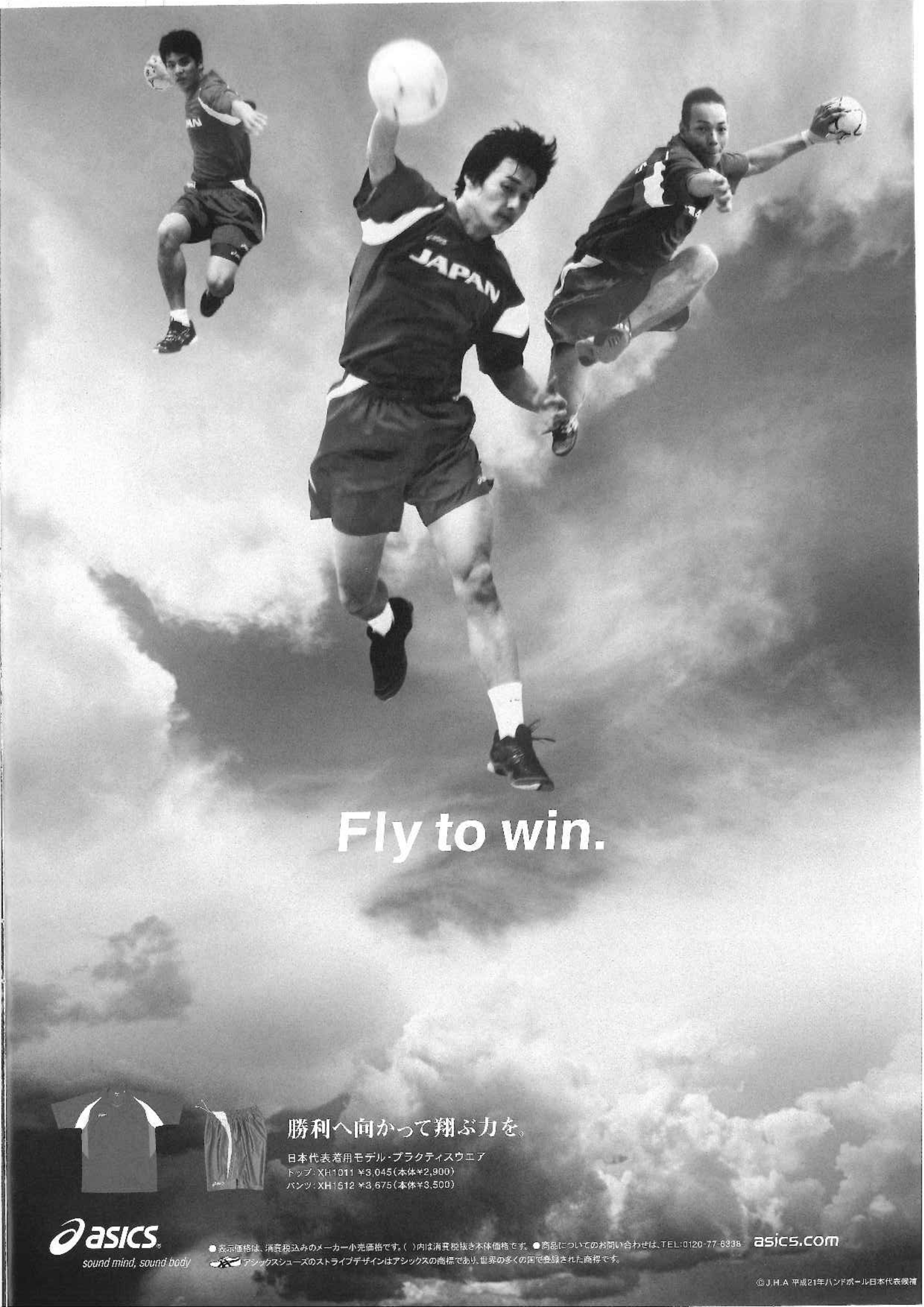
8月22日㈪～28日㈰
第19回日韓中ジュニア交流大会（愛知県・名古屋市）

8月27日㈯・28日㈰
第38回全国高等専門学校選手権大会
（神奈川県・川崎市）

8月27日㈯・28日㈰
第13回全日本ビーチハンドボール選手権大会
（兵庫県・神戸市）

HAND BALL　CONTENTS　Aug.

（登録チームの購読料は登録料に含む）


JAPAN
Fly to win.
勝利へ向かって翔ぶ力を。
日本代表着用モデル・プラクティスウエア
トップ：XH1011 ¥3,045（本体¥2,900）
パンツ：XH1512 ¥3,675（本体¥3,500）
asics
sound mind, sound body
●表示価格は、消費税込みのメーカー小売価格です。（ ）内は消費税抜き本体価格です。●商品についてのお問い合わせは、TEL:0120-77-6338
asics.com
アシックスシューズのストライプデザインはアシックスの商標であり、世界の多くの国で登録された商標です。
©J.H.A 平成21年ハンドボール日本代表候補



(財)日本ハンドボール協会編 『ハンドボール』第五二〇号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
平成二十三年七月二十六日印刷 平成二十三年八月一日発行
東京都渋谷区神南一―一―一
電話 代表 〇三―三四八一―二三六一
振替 〇〇一二〇―七―一〇一九三
編集兼発行人 川上憲太
定価 年間三二〇〇円